

2024年度 まめどくれっしゅ 事業報告書 (保育所における自己評価)

1. 2024年度の概要 ～年度の基本方針を受けて～

法人の理念及び子育て目標を全スタッフが理解し、子どもの主体的・対話的な深い学びを留意しながら日々の生活を大切にすることに取り組んできた。

まめどくれっしゅの園目標の4点を中心に子ども一人ひとりの育ちに寄り添いながら、就学までには10の姿を見据えて、自分で考え、友達同士で考え、時には失敗して立ち止まり、試行錯誤を繰り返しながら、さまざまな体験を通じて学びを深め発展できるようにしてきた。そして、子どもが自分で選んで、自分で決めて自分の生活を営むことができるように、どろんこ会グループの生活力の体得、命をいただく活動の実践を子どもたちと一緒に大切に行ってきた。その結果、子どもたちは、体を使うことを楽しみ、自分で考えたり、工夫したり、人と関わって何かをすること、共感することが好きになってきた。園目標を定め、どろんこ会が目指す園の姿のポイントを柱に保育内容の充実と保育の質の向上に努めた。

〈1〉保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	法人の理念や法人の目標から落とし込まれた保育目標に向かって、全スタッフが計画的・数量的・体系的な行動計画をもち、実践する。
	実践結果	園や個人の課題に基づいて開催した園内研修(園長大学・保育士大学講座)を軸に保育者として専門性を高めるべく自己研鑽を図り「目指す子どもの姿」「園目標」に適った行動になっているのか、組織として評価し改善していった。
	次年度方向性	保育の目標に向かって全スタッフが学び続け、日々の保育の積み重ねを大切に保育の基本を習得していく。
2	計画・ねらい	子ども主体の保育を確立させる。活動を選択し、自分で考えて行動する。
	実践結果	保育者は子どもの行動を一步下がって見守ることを意識して行ってきた。子どもの興味を探り、興味に合った環境を用意することを行ってきた。さらに一步進んで、子ども自身が自ら考え、主体的に活動を行えるような環境を整えていく。
	次年度方向性	子どもたちの遊びが発展するような「しかけ」を考え、提供していく。まずはスタッフがPDCAを理解し、それを子ども同士の関わりの中で、考えられるようにサポートする。
3	計画・ねらい	生死を知る。
	実践結果	鶏・生き物の世話、生死教育、食材と食の循環を知る、性教育のさまざまな活動を通して、命の大切さや尊さを知る実践を行った。
	次年度方向性	「いただきます」には、生き物の「命をいただく」ことの感謝の気持ちを持つ重要性を学んだ。同時に継続的に食の循環や命の大切さのつながりを育んでいく。

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	園での子どもの姿や成長の様子を共有していく。
---	--------	------------------------

	実践結果	子どもの姿が手に取るようにわかるようなタイムライン、また、タイムラインでは伝えきれない子どもの姿やエピソードを保育ドキュメンテーションなどのあらゆる方法を用いて掲示した。子どもの姿や保育園で子どもたちがどのような活動をしているのか理解をいただくことで、保育理念やまめどくれっしゅの保育目標を少しでも理解していただけるように努めた。
	次年度方向性	保育園の目指す「子ども像」、保育のあり方の情報を精査しわかりやすく伝えていく。子どもの育ちや学びの過程など保護者と共有できる機会を増やし、保護者と共に協働の子育てを意識していく。
2	計画・ねらい	保護者と連携して子どもの成長をサポートする。
	実践結果	保護者懇談会では、法人の理念やまめどくれっしゅの保育方針を、日々の姿から、目に見える姿だけではなくその取り組みを通してどのような力が育っているのか、日々の活動にはどのようなねらいがあるのか、「子ども主体」の保育を伝えた。また、保育参加を積極的に推し進め、保育者とは違う保護者の視点から、保育運営に対して貴重なご意見をいただき、協働的に保育を進めるきっかけとなった。
	次年度方向性	全家庭を目標として保育参加の推進。保護者が保育者として保育に参加していただくことで、さらに協働の子育てを推進していく。また、保護者の希望に応じて子育てについての悩みや相談を行い、保育者が一人ひとりの保護者にとっての安心感につながることを模索していく。

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域に開放的な園を目指す
	実践結果	保育所保育指針「地域に開かれた子育て支援」及び横浜市の保育所地域子育て支援を鑑み、保育園の役割や機能を達成するための地域のニーズを把握し、地域の資源として保育園を利用できるようにした。
	次年度方向性	関係機関や各団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報が全スタッフに共有されるようにしていく。
2	計画・ねらい	子育て家庭との交流の場の提供と交流を促進する。
	実践結果	チキンエッグだよりやチラシなどを用いて積極的に地域に周知をした。また、近隣の保育園や商店街、施設などと交流を深めながら、いつでも気軽に立ち寄りやすい場所という印象を作った。
	次年度方向性	今年度訪問や交流のあった商店や保育園では、次年度も引き続き交流が持てるようにつながりを大事にしていく。さらに園の取り組みにも理解して、長くつながっていけるように丁寧に対応をしていく。
3	計画・ねらい	子育て等に関する相談や援助の実施。
	実践結果	園を利用している保護者には、日々の子どもの様子や園の生活の様子がわかるように丁寧に伝えることに心がけた。また、園見学の方や園にかかってきた電話なども丁寧な対応に心がけた。
	次年度方向性	誰に対しても対応が同じで、気持ち良く丁寧な対応ができるように、接遇についてスタッフ間で考える時間を作り研修を行っていく。そして、さらなる向上に努めていく。

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	園内研修、外部研修、スキル講座への参加をする。
	実践結果	毎月の園内研修や自主研修などで学び、小グループで話し合いの場を作り、保育の課題を抽出した。課題解決の手立てとして、ワークを活用して考察した。事業計画の進捗と共に振り返り、改善をしていった。
	次年度方向性	どろんこ会の理念、子育て目標について、スタッフ全員が学び続けていく。園内研修など、あらゆる機会を学びの機会としていく。
2	計画・ねらい	「報連相」の徹底したチーム保育づくり。
	実践結果	「報告・連絡・相談」を徹底し、一人ひとりが考え、職員同士で話し合う機会を持つようにした。子どもや保育の話だけでなく、常にコミュニケーションを取ることを大切にし、個々の能力を活かした保育ができるように努めた。
	次年度方向性	コミュニケーションを基盤としたチーム作りのため、引き続き「報告・連絡・相談」を徹底し、縦の一本のラインだけでなく横・斜めに相互に作用しあい、チーム保育の柱を築いていく。
3	計画・ねらい	「同僚性」の創出。
	実践結果	スタッフ同士が保育のプロとして自覚を持ち、スタッフ間での話し合いの場を設け、お互いを感じていることや考えていることを言葉にすることで、相互理解を進めた。
	次年度方向性	スタッフ同士がコミュニケーションを取りながら効率的に業務を行っていく中で、会議やミーティングでの話し合いの場を頻繁に設ける。さらに、状況変化に応じて、主体的に判断、行動する自主自立化の進んだ組織にしていくと共に、園全体のチームとしての底力も上げていく。

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食材、食の循環を学び環境に対して興味を持つ。
	実践結果	「命をいただく活動」を実施することで、「命をいただく」ことへの感謝の気持ちや残さず食べることの大切さを知った。また、調理で出た野菜くずなどでコンポストを活用し堆肥作りを実施し、食の循環を意識した取り組みを行った。
	次年度方向性	コンポストや畑を通しての食の循環だけでなく、鶏など生き物を巻き込んだ食の循環と環境に対しての理解が深まっていける取り組みを実施していく。
2	計画・ねらい	給食残渣を減らす。
	実践結果	給食残渣は、他と対比して極めて少ない実績であり、法人内会議においても好事例として、自園の工夫を発信した。
	次年度方向性	定着した残渣の少なさを維持し、さらなる改善の余地を模索していく。

〈6〉子どもの人権（施設長が力を入れて取り組みたい内容）

1	計画・ねらい	子どもは大人と同等であり平等である。
	実践結果	園内研修において、子どもの人権・権利について理解を深め、日々の子どもたちは、何を感じ、思い、行動しているのかつぶやきやエピソードを通して、子どもの思いや背景にある生活体験、保育者の願いなどの考察を行った。そして、日常の子どもたちに耳を傾けながら関わることができた。
	次年度方向性	子どもも大人も平等であることは今後も変わらない。対等な関係性を築いていく。
2	計画・ねらい	国際教育。
	実践結果	違いを学び、違いを楽しむ。日本以外の国や文化に目を向けることで、見た目も習慣も多様な考え方があることを受け止めることができた。
	次年度方向性	「子どもも大人も多様性に満ちている」ことを実感し、多様性を自然に受け入れられる土壌を作っていく。

〈7〉子どもの安心感の支えるチームの構築

1	計画・ねらい	一人ひとりの安心感の醸成をする。
	実践結果	子どもたちを集団としてとらえるだけではなく、子ども豊かな心を受け取り、丁寧に応答的なやりとりを行った。
	次年度方向性	子どもたちが、自分の感情を表現できる場を提供する。子どもたちが気持ちを言葉にできるようにサポートし、どのような感情でも受け入れてもらえることがわかり、保育者との関係を通じて安心感を培っていく。
2	計画・ねらい	子どもの理解、見る目を養う。
	実践結果	主体的、自発的に遊ぶ子どもの姿をとらえて、保育者間で語り合いの時間を持った。また、子どものエピソードを共有し、興味関心を探ることで、子どもの「やりたい」を叶えられるような活動を用意した。
	次年度方向性	保育者同士がお互いの保育観を知り、子どもの姿を肯定的に捉える目を養っていく。それをもって、保育者自身が保育に対して、主体的に取り組んでいく姿勢を持てるようにしていく。
3	計画・ねらい	チームで協力体制を築く。
	実践結果	個々の個別計画をどのように実践するのか、ねらいや価値をスタッフ全体で共有し、チームで協力して子どもが安心して過ごせるように支えてきた。
	次年度方向性	引き続き、子どもが安心して過ごせる環境を整え、スタッフがお互いに認め合いながら、お互いの考えを尊重し成長し合う集団を目指していく。

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4～9月	15人	48人	60人	60人	64人	54人	301人
年度後半： 10～3月	18人	48人	60人	60人	60人	63人	309人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	43人	41人	52人	58人	58人	33人	54人	54人	42人	31人	40人	40人	546人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）一年通して平均的に利用があった。

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

（解説）配置基準に基づいた保育士配置基準による人員確保により、今年度は休止とした。

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成（3月1日時点）

常勤 スタッフ	保育士	10人	調理員等	2人	補助	1人		
パート スタッフ	保育士	2人	補助	0人	調理	1人	事務	0人
	用務	0人	嘱託医	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
-----	------	------

園会議	月1回 ※2,3月は策 定会議にて 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内会議
給食運営会議	月1回	アレルギー確認、クラス給食状況、食育会議報告
事故防止委員会	月1回	危機管理、安全対策、前月の検証
ケース会議	月1回	保育計画の振り返り、立案、共有、他機関との連携報告
リーダー会議	月1回	園全体の運営、人材育成計画立案・共有
昼礼	週1回	事務連絡、子どもの様子の共有、事故・怪我の共有
フロア会議	週1回	フロアごとの保育計画の振り返り・立案、子どもの様子の共有

〈2〉出席した施設外会議（Web 参加含む）

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回（5.8.11.2月）	施設長
主任会議	年4回	主任・ミドルリーダー
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	子ども及び保育者の保健保持のために、施設内外の保健的環境の維持向上、衛生管理を行い、子どもも保育者も健康保持につながるための意識を高めた。
安全対策係	施設内外の設備及び用具の安全管理・点検、事故記録の作成、避難訓練計画の立案・実施し、事故や怪我につながる要因の分析と検討を行い、防止に努めた。
防火管理者	災害を想定した訓練計画や消防設備点検、避難経路の確保・点検し、自園の特性を踏まえた計画と実践を意識することで、より具体的な反省点も見えた。

食品衛生管理係	給食衛生管理マニュアルに基づいた対応をし、より食の安全性を追求した。
畑係	年間を通した畑・食育計画の立案・実施、畑の管理をし、子どももスタッフも作物の生育を喜び、食への意識が高まった。
生き物係	命の尊さや自然現象への関心を高める環境を整え、鶏などの生き物の世話を通して、子どももスタッフも命あるものへの労りや命あるものをいただく事の感謝する気持ちを育み、食物連鎖につながることを認識した。

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	どろんこ祭りは、大豆戸どろんこ保育園と合同開催した。両園のどろんこサポーターを中心に企画立案をし開催した。夏ならではの内容や模擬店の出店は、園児や保護者、また地域の方から好評であった。
運動会	運動会の立案・実行。会場の下見や備品の管理。子どもの運動面での成長を伝えるため話し合いの場を持ち、準備、状況を追い、役割分担をしながら全体の進行を行った。
生活発表会	生活発表会の立案・実行。子どもの一年間の成長をどのように伝えるのか話し合いの場を持ち、準備、状況を追い役割分担をしながら、全体の進行を行った。自園での開催のためクラスごとの入れ替え制で行った。保護者で希望の方は、他クラスの観覧も可能だった。

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育参加	・年間通して、保育参加を希望する保護者が多かった。園での子どもの様子や活動の取り組みを保育参加で理解いただき、子どもの成長や保育についての理解を深めるきっかけとなった。 4～3月まで 合計 22名 が参加済み (3月3日時点)
保護者面談および発達相談	4～3月まで 合計 9名 が参加済み (3月1日時点) ・家庭の様子や保護者の意向を共有することで、子どもへの理解を深め子どもの成長につながる支援を見つけることができた。
運営委員会	運営委員会を11月8日にまめどくれっしゅにて実施し、参加した保護者3名。詳細は議事録に記載

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	噛む力を養い、素材を味わう。
	実践結果	乳児期に欠かせない栄養バランスに配慮し、噛む力を育てられるように食材の大きさを調節、素材を味わい、季節感を感じられる献立を提供した。
	次年度方向性	保護者にも噛むことの大切さを伝え、一人ひとりが十分にねらいを達成できるように援助する。
2	計画・ねらい	食育活動を行う。
	実践結果	自分たちで選び、畑で野菜を栽培することで、成長の変化や旬の食材に気づき、食に興味を持てるようになった。クッキングでは、自分たちが育てた野菜を使い、素材が様々な食べ物に変化する姿を見ることで、食に興味を持てるようになっている。
	次年度方向性	日々の畑仕事を日課とした上で、子どもと共に命を育てて命をいただく大切さを知り、作物の変化に気づいていく。
3	計画・ねらい	バイキングや食事のマナーを知る。
	実践結果	自分が食べられる量や時間を知り、自分たちで決めていくことができるようになってきている。しかし、挨拶や食事のマナー、食具の正しい使い方については、課題が残る。大人が見本となって、繰り返し丁寧に伝えていく。
	次年度方向性	日々の食事に関することを意識した上で、子どもと共に食事環境の大切さを知り、食事に関することで子どもの変化を見ていく。

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月19日／11月20日に実施
歯科検診	6月25日／11月27日に実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	① 5月7日に手洗い、うがい指導を実施 ② 6月4日に歯磨き指導(幼児)を実施 ③ 7月1日に「夏の過ごし方」についての指導を実施 ④ 12月13日「幼児期からの性教育」(年長児)を実施 ⑤ 1月6日に「歯磨きについて知ろう」(乳児)を実施

流行した感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・11月～1月にかけて、インフルエンザ、園児6名が感染報告 1月27日に終息 ・マイコプラズマ肺炎 ・溶連菌
発作・痙攣等の対応	・計1名に対し、計1回ダイアップ使用
エピペン使用できるスタッフの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3月19日に園にて、エピペン研修をスタッフ13名、調理スタッフ2名、新たに2名が受講し、計17名が習得済み ・本日時点で、在籍スタッフ17名のうち、15名が使用可能
その他保健に関する取組	嘔吐処理物品の管理、嘔吐処理方法のスタッフ指導、救急用品の管理、新型コロナウイルス及び、他感染症予防のための、手洗い・うがい指導、消毒、歓喜の徹底

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	フロン点検（法定1回/3年）	業者による対象物の法定点検 2023年実施済み ※対象物がない園及び JW 園は削除すること
	フロン点検（簡易）	対象物の簡易点検4・7・10・1月の25日に計4回実施
衛生管理	衛生管理点検表／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施⇒実施していない日 0日
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施⇒実施していない日 0日
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月30日、10月20日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月19日、11月20日 歯科健診 各年2回／6月25日、11月27日

運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月30日、10月29日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

1	計画・ねらい	子どもの「やりたい」を尊重し、発達や興味・関心に合わせた環境を作ると共に、安心して過ごせる環境作りを行う。
	実践結果	園会議内などで子ども達の様子を共有し、子どもが自分で考え、他者と関わりながら自分で行動できる保育環境を作った。さらに年齢ごとの子どもの発達や姿に合わせて、定期的に保育室の環境の整備を行った。
	次年度方向性	引き続き、子どもの発達や興味関心、安心して過ごせる室内環境を見直し、戸外活動に於いても、子どもが選択して遊べる環境の充実を図っていく。
2	計画・ねらい	自然に触れて感動する体験や命の大切さを感じる環境作り。
	実践結果	戸外活動を充実させ、身近な自然の中で、風、陽の光、草花、土、水たまりなどで五感を働かせながら遊びを楽しみ、自然の素晴らしさやおもしろさに感動する経験を行った。さらに、年間を通して身近な植物や虫などの生き物と関わり、自園での「命をいただく活動」を通して命の尊さに気づき生命を大切にする気持ちが高まった。
	次年度方向性	「命をいただく活動」から得られた、生命の大切さや食への感謝の気持ちが引き続き持てるように、身近にあるものの「生物と無生物」の違いや食物連鎖についての知識の習得を行っていく。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具一覧

No	遊具・家具名	設置場所	点検実施時期	点検結果
1	吊りブランコ	園庭	毎日	異常なし
2	タイヤ遊具	園庭	毎日	異常なし
3	鶏小屋	園庭	毎日	異常なし
4	泥場	園庭	2か月に1回	異常なし
5	靴入れ	2階縁側	毎月	異常なし

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に基づき自衛消防隊を編成し、避難訓練を毎月15日に行う。 危機管理マニュアルに則り、災害発生時には対応フローチャートに従う。 年2回通報訓練と保護者と連携した児童引き取り訓練を行い、非常時はアプリを使用し、園が情報を発信安否・施設状況・連絡先を情報共有体制をとった。
---	------	---

2	実践結果	危機管理マニュアルに則り、ケガ発生時には対応フローチャートに従う。事故防止委員会を毎月1回行い、ケガや事故の共有、検証、再発防止策を共有する。また同グループ内でも共有し、事故防止策を探った。園内外のハザードの見直しを定期的に行い、ハザードマップの作成・共有を行った。
3	実践結果	危機管理マニュアルに則り、不審者侵入時には対応フローチャートに従う。年2回不審者侵入訓練を実施した。
4	実践結果	光化学スモッグが発生しやすい状況を把握し、発令があった場合は速やかに対応し、室内で過ごし健康状態の確認を行った。
5	実践結果	インシデント・ヒヤリハット報告書を活用し、事故防止委員会で検証を十分に行うことで事故を未然に防いだ。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振返り

異世代交流で和太鼓部との交流をきっかけに、中学生が職場体験をすることになった。中学生との交流は初めてであったが、保育所の事や乳幼児期の子どもを知ってもらい、関わることの喜びを感じていた。次年度以降も地域のつながりとして交流していけるように引き継いでいく。

〈2〉実習生の受入

今年度受け入れなし

〈3〉中高生の受入

日程	学校名	人数
11月20日	横浜市立樽町中学校	11名

7. スタッフ研修

〈1〉園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	26日 15名	24日 15名	28日 15名	26日 14名	23日 14名	27日 14名	25日 14名	29日 14名	27日 14名	24日 14名	21日 15名	2日 15名
保育の質研修	26日 15名	24日 15名	28日 15名	26日 14名	23日 14名	27日 14名	25日 14名	29日 14名	27日 14名	24日 14名	21日 14名	2日 14名

〈2〉外部研修への出席

今年度は、外部研修の参加なし

〈3〉法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	12日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	20日 1名	21日 1名	日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	15日 1名	18日 1名	15日 1名	19日 1名	日 1名
全社員研修	10月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

〈5〉若手スタッフの育成研修

保育者としての心構えや保育の基本の基の学びの計画をして研修を行った。若手保育者の存在を肯定的に受け止め、保育の仕事を選んだことを共感し、子どもの魅力や保育の奥深さを伝え、自身が好きなことや得意なことを保育に生かす工夫を具体的に学んだ

8. 地域交流

〈1〉今年度方針・テーマの振り返り

法人理念における保育方針の「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」にあるように、戸外に出かけ近隣住民や身近な人と様々なかかわりを経験し、子どもたち一人ひとりが地域に愛される存在になるように計画し実践をした。

〈2〉実施した地域交流

活動行事	内容
青空保育（保育園主催）	月1回 公園名：大曾根第二公園にて 参加延べ人数：4名
商店街ツアー	週1回 主な行き先：港北消防署、港北郵便局、アポ菊名ウォータープラザ資源循環局、菊名地区センター、師岡神社、港北警察署、小泉麴屋、トレッサ横浜、アニマート菊名、日産スタジアム等
世代間交流	1月16日にニューバード獅子ヶ谷にて新年の集いを実施
異年齢交流	11月21日にまめどくれっしゅの保育室にて中学生との交流を実施
その他活動	4月30日に小泉麴屋の竹林にて、タケノコ狩りを実施
銭湯でお風呂の日	月1回 〈3～5歳児〉 実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

〈1〉今年度の振り返り

子どもの発達の一貫性を見据えたうえで、保育所における保育が行われていること、子どもたちの生活が小学校へつながるものとして、就学を見通した保育がどのように行われているか小学校と連携できるように働きかけた。

〈2〉具体的な連携

日程	学校名・クラス名	参加人数	活動名（会場）	内容
6月27日	師岡小学校 校長	1名	横浜市港北区幼・保・小 交流事業「園長・校長 会」	職員間交流
1月 8日	菊名小学校	1名	自園	児童情報共有
2月 3日	太尾小学校	11名	「小1交流会」 太尾小学校	子ども間交流
2月 6日	師岡小学校	1名	自園	児童情報共有
2月 17日	獅子ヶ谷小学校	1名	自園	児童情報共有
2月 25日	大綱小学校	1名	自園	児童情報共有

10. 要支援児

〈1〉個別支援計画の作成・見直しの状況

子どもの状況などを観察し、学年会議で振り返りと保育者間の共有を行い、見直した。

〈2〉毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計12回開催 参加者：6名

毎月1回、担当者を中心に子どもの変化や興味などを話し合い、共有した。また、次の発達段階を見越して計画を立て、保育者間で共有し配慮した。

〈3〉進級引継、および小学校への引継状況

小学校の引継ぎは、横浜市保育所保育児童要録の送付、各校の担当職員と子どもについて申し送りによって行った

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0名	2名	2名	4名	2名	2名	2名	0名	0名	0名	6名	0名	18名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施 来園延べ人数：10名												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計1件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計1回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	2名
どろんこ 芸術学校 どろんこ 自然学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計5回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	2名	2名	4名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	2名	0名	12名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日発行												
青空保育 (支援セン ター主催)	月1回 公園名：大曾根第二公園にて 以下日程にて実施												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	2名	2名	0名	0名	0名	0名	0名	4名

12. 園運営の向上

〈1〉福祉サービス第三者評価の受審

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年8月29日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：12時30分

自己評価終了時刻：14時30分

自己評価実施者：施設長、主任及び当日出勤の全スタッフ

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

日頃の園の運営にご理解をいただいている保護者が多いが、中には厳しいご意見もあった。一つ一つのお声に対して貴重なご意見として捉え、是正できるようにスタッフ全員で取り組んでいく。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

報告すべきご意見 0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

報告すべきケガ（事故含む） 0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2025年3月15日 作成者：まめどくれっしゅ 施設長 寺井 奈穂美